

地域で役立つ OT になるために —高齢者のヘルスプロモーション編

特集にあたって

団塊の世代が90歳に到達し医療・介護の需要が高まる2040年に備えて、健康寿命の延伸は重要な国家課題の一つである。高齢者を含むすべての国民が、健康について関心を高め、学び、適切な活動と参加の選択を続けながら、自分らしい人生を歩むことが求められている。

2020年度（令和2年度）、国は「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」を施策に掲げ、そこにかかわる医療専門職として「作業療法士」の職名を明記した。これからはOTがどのような専門性でどのように地域保健領域へ参画（企画、教育、指導、助言、現場支援等）すべきなのかを明らかにしていかなければならない。それは「作業は人を元気にする」とする作業療法の幅広い効果を示していくことでもあり、「作業療法の有効活用」、「作業療法の社会化」という重要なテーマへとつながっている。

今回、そのような時流の起点として、「地域で役立つ OT になるために—高齢者のヘルスプロモーション編」を企画した。国・自治体の制度、自治体の事業展開、自治体からの事業受託、高齢精神障害者、認知症予防、地域ケア会議等、さまざまな観点から、OT参画の役割と可能性を示す。これを指針に全国での実践が増えることを期待したい。

（谷川 真澄）

企画担当

谷川 真澄（有限会社なるぞ、作業療法士）

香山 明美（東北文化学園大学、作業療法士）

中村 春基（日本作業療法士協会、会長・作業療法士）